

小谷村観光未来づくり協議会 顛末

日時：令和8年6月22日（月） 午後3時から午後4時30分まで

出席者：別紙名簿のとおり

1. 開会・委員紹介・会長選任

事務局より、委員名簿の変更について報告があった。ホテルグリーンプラザ白馬、白馬アルプスホテル、小谷村議会、JA 大北小谷支所、観光連盟事務局等における委員交代・代理出席が確認された。

会長選任については、事務局案により小谷村議会副議長を会長とすることが承認された。副会長について今回は保留とし、次回以降に選任することとなった。

2. 観光地経営計画の策定について

事務局より、小谷村の観光に関する経営計画の策定を、株式会社ズクトチェに委託したことが報告された。同社は白馬村の観光地経営計画等にも関わっており、観光地経営に関する知見を有していることが説明された。

株式会社ズクトチェより、今回の協議会はキックオフとして、計画策定の目的、進め方、成果物のイメージ、初期分析結果を共有し、委員から現状認識や課題、今後の方向性について意見を得る場であるとの説明があった。

3. 計画の位置づけ・構成案

計画は、村の総合計画の下に位置づける観光分野の計画として整理し、村長から協議会への諮問を受け、協議会で素案を作成したうえで村へ答申する流れが想定された。

構成案として、現状分析、観光地としてのコンセプト・ターゲット、主要施策、推進体制、ロードマップ・KPI を盛り込むことが示された。特に、観光地を一つの経営体として捉え、中期経営計画のように方向性と実行内容を明確にすることが重要であると説明された。

4. 今後の進め方

今年度中に村長へ答申することを目標とし、第2回協議会を夏休み明けの9月頃、第3回協議会を冬季前の11月頃に開催する想定が示された。その後、関係団体への説明やパブリックコメントを経て、年度内に最終案を取りまとめる方向で進めることとなった。

委員からは、次回以降の資料について、協議会当日ではなく事前に共有し、十分に確認したうえで議論できるようにしてほしいとの要望があった。事務局および委託事業者は、可能な限り事前共有を行う方針を示した。

5. 初期分析の概要

小谷村では人口減少が続いており、特に社会減への対応が課題であることが示された。また、就業者の多くが観光関連産業に関わっていることから、観光振興は人口維持や地域コミュニティの維持にも重要な役割を持つと整理された。

観光需要については、入込数や消費単価は一定程度好調である一方、日帰り客の増加、冬季への偏り、グリーンシーズンの伸び悩みが課題として挙げられた。外国人客は冬季にオーストラリアを中心とした来訪が多く、夏季はアジア圏からの来訪が中心であるとの傾向が共有された。

供給面では、宿泊施設は小規模施設が多く、後継者問題やインバウンド対応、施設更新が今後の課題となる可能性が示された。また、飲食店数や街としての滞在機能が不足している可能性があり、長期滞在や地域内消費を促すうえでの課題として指摘された。

財政面では、観光振興に使える財源の制約や、ふるさと納税基金の活用可能性について説明があった。維持管理中心の支出に加え、将来の観光振興や税収増につながる投資のあり方を検討する必要があるとされた。

6. 主な意見・要望

- 総合計画との整合性を意識し、人口目標や地域コミュニティ維持の視点を計画に盛り込むべきである。
- 計画期間について、総合計画との整合を取りつつ、短期だけでなく中長期の視点も必要である。

- 観光地のビジョンやターゲットは、写真や事例を活用し、関係者に伝わりやすい表現とすることが望ましい。
- 小谷村独自の地域資源、歴史文化、塩の道などを活かした観光振興を重視すべきである。
- 訪日客対応に加え、人材育成や教育との連携も検討すべきである。
- 外部資本の活用と地域主体の利益循環のバランスを取り、地域に利益が残る仕組みを検討すべきである。
- 国内客とインバウンド客のバランスを分析し、国内客を維持・誘客する視点も必要である。
- グリーンシーズンの需要開拓、長期滞在促進、街の魅力向上、宿泊施設の更新・転換が重要な論点である。
- データについては、出典や精度を確認し、必要に応じてより適切な資料へ差し替えるべきである。

7. 協議会メンバーの追加について

事務局より、今後の議論を深めるため、各スキー場エリアや若い世代、女性の視点を含めた委員追加を検討したいとの提案があった。委員からは、未来づくりという趣旨を踏まえ、若い世代を中心に加えるべきとの意見があった。

協議の結果、委員の追加については事務局および会長で相談し、次回以降の協議会に向けて調整することとなった。

8. 今後の対応

事務局および委託事業者は、今回の意見を踏まえて計画素案の検討を進める。委員からの追加意見は随時受け付け、次回協議会では事前共有された資料をもとに、コンセプト、ターゲット、主要施策等について議論を深めることとした。

以上をもって、本日の小谷村観光未来づくり協議会を終了した。